科目名称	臨床看護総論（臨床判断）	学年学期	単位数	時間数
		2学年前期	1	30
担当教員	村上 裕紀　山下 さつき　志女木 智奈	授業に関わる実務経験	■ 有 （ 看護師 ） □ 無	

【1】 授業概要

健康の正常から逸脱した、身体的不均衡・心理的不安定状態・社会的葛藤がある患者を理解し、病状・経過および治療に応じた看護の方法を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 健康障害を持つ患者の看護について知識を統合することができる。
2. 健康障害を持つ患者に起こっていることが理解でき、患者の病態が説明できる。
3. 健康障害を持つ患者の特性について説明することができる。
4. 健康障害を持つ患者の持つ問題解決や課題達成に向けて看護は何をすべきか考えることができる。
5. 健康障害を持つ患者の看護の方向性を考えることができる。
6. 自分の課題に積極的に取り組むことができる。
7. 自分の学習成果をグループ員にわかりやすく説明できる。
8. グループ討議で自分の考えを広めたり深めたりすることができる。
9. グループ内で自己の役割を果たすことができる。
10. 治療処置別看護の知識を活用し、看護技術が実践できる。
11. 実践した治療処置別看護技術について自己評価することができる。

【3】 第 2 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
■ 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
■ 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
■ 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
□ 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
□ 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
■ 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態	教員
1	健康状態の経過に基づく看護	講義	村上 裕紀
2	急性期・回復期・慢性期・終末期の特徴	講義	村上 裕紀
3	主要症状を示す対象者への看護	講義	村上 裕紀
4	治療・処置を受ける対象者への看護	講義	村上 裕紀
5	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断①	グループワーク	村上 裕紀
6	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断②	グループワーク	村上 裕紀
7	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断③	グループワーク	村上 裕紀
8	看護技術：胸腔ドレナージの管理、ガーゼ交換	演習	村上 裕紀
9	看護技術：気管内吸引、酸素ボンベの取り扱い	演習	村上 裕紀
10	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断④	グループワーク	村上 裕紀
11	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断⑤	グループワーク	村上 裕紀
12	救急蘇生法	演習	山下さつき
13	臨床推論、病態理解の看護学的視点と臨床判断⑥	発表	村上 裕紀
14	呼吸を整える技術	講義・演習	志女木 智奈
15	筆記試験・まとめ		村上 裕紀

【5】 評価方法

筆記試験 50%、レポート提出とグループワーク及び演習の参加態度・課題提出 50%で評価する。

※割合は今後の状況に応じて変更の可能性がある。

【6】 教科書

任和子：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ（第 19 版）医学書院 2026（電子版）

香春知永：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4) 臨床看護総論（第 8 版）医学書院 2026（電子版）

【7】 参考書

授業内で提示する。

【8】 受講生へのメッセージ

既習の知識や新たな知見を得ながら学びを深めていきましょう。